

第2回 日本薬学教育学会大会 2017 名古屋 プログラム

1. 総会

9月2日(土) 11:00~12:00 (A会場:宮田専治記念ホール)

2. 大会

1) 開会式

9月2日(土) 13:00~13:30 (A会場:宮田専治記念ホール)

大会長 挨拶

名古屋市立大学 学長 挨拶

文部科学省 祝辞

厚生労働省 祝辞

2) 特別講演

共催:東海薬学教育コンソーシアム

<特別講演1>

9月2日(土) 13:30~14:30 (A会場:宮田専治記念ホール)

講師 国立教育政策研究所 高等教育研究部長 深堀聰子

「薬学教育の学習成果を測定する」

座長 大津 史子(名城大学)

<特別講演2>

9月3日(日) 13:00~14:00 (A会場:宮田専治記念ホール)

講師 愛知医科大学 医学教育センター長 伴信太郎

「医療人教育の現状と課題~医学教育から薬学教育に期待するもの~」

座長 鈴木 匡(名古屋市立大学)

3) シンポジウム

<シンポジウム 1>

9月2日(土) 14:30~16:30 (A会場: 宮田専治記念ホール)

「6年制薬学教育のアウトカムと質保証」

オーガナイザー 平田 収正 (大阪大学大学院薬学研究科 教授)
中村 明弘 (昭和大学薬学部 教授)

趣旨説明

中村 明弘 (昭和大学薬学部 教授、薬学教育評価機構 基準・要綱検討委員会 委員長)

S1-1 薬学教育評価・第2サイクルの課題

山田 勉 (立命館大学 薬学教育評価機構 アドバイザー)

S1-2 平成28年度第三者評価の結果と薬学教育の今後のあり方

平田 収正 (大阪大学大学院薬学研究科 教授、薬学教育評価機構 評価委員会 委員長)

S1-3 第2サイクル評価基準案ーアウトカムと質保証ー

長谷川 洋一 (名城大学薬学部 教授、薬学教育評価機構 基準・要綱検討委員会 評価基準改定ワーキング責任者)

総合討論

<シンポジウム 2>

9月2日(土) 14:30~16:30 (B会場: 大講義室)

「事前学習・実務実習のアウトカムを測る」

オーガナイザー 安原 智久 (摂南大学薬学部 准教授)
鈴木 匡 (名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授)

趣旨説明

安原 智久 (摂南大学薬学部 准教授)

S2-1 次世代の薬剤師を養成する薬学臨床の在り方

鈴木 匡 (名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授)

S2-2 事前実習と実務実習の総合的評価を確立に向けて

ー卒業時における臨床能力の質保証のためにー
小森 浩二 (摂南大学薬学部 准教授)

S2-3 薬局実習で行うパフォーマンス評価ールーブリック評価は果たして可能かー

安原 智久 (摂南大学薬学部 准教授)

S2-4 病院実習で行うパフォーマンス評価

鈴木 小夜 (慶應義塾大学薬学部 准教授)

総合討論

<シンポジウム 3>

9月2日(土) 14:30~16:30 (C会場:講義室1)

「薬学教育における屋根瓦方式教育の実践例、教育効果、課題」

オーガナイザー 林 高弘(金城学院大学薬学部 教授)

杉浦 宗敏(東京薬科大学薬学部 教授)

S3-1 金城学院大学薬学部における屋根瓦方式 PBL チュートリアル教育

矢野 玲子(金城学院大学薬学部 講師)

S3-2 6年制薬学教育における屋根瓦方式教育の活用ー1年生への学習支援ならびに

5年次の技能・態度教育へのどぶ実務実習導入教育への導入例ー

杉浦 宗敏(東京薬科大学薬学部 教授)

S3-3 医療現場で活躍する実力派薬剤師の養成は最初の一步が肝心

橋田 亨(神戸市立医療センター中央市民病院 院長補佐・薬剤部長)

<シンポジウム 4>

9月3日(日) 9:00~11:00 (A会場:宮田専治記念ホール)

「薬剤師の生涯研鑽」

オーガナイザー 木内 祐二(昭和大学医学部 教授)

亀井 美和子(日本大学薬学部 教授)

S4-1 薬剤師の生涯研鑽を取り巻く環境と課題

亀井美和子(日本大学薬学部 薬事管理学研究室 教授)

S4-2 薬剤師の生涯教育への期待

木内 祐二(昭和大学医学部 医学教育学・薬理学医科薬理学部門 教授)

S4-3 薬剤師の生涯研鑽のあるべき姿ー生涯学習・生涯教育は患者・住民のためにー

紀平 哲也(厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 薬事企画官/医薬情報室長)

S4-4 臨床薬剤師を養成するための生涯教育プログラム、認定・専門薬剤師制度と
第三者評価

松原 和夫(京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長)

S4-5 処方箋受け取り率 70%を超えた時代における薬剤師の生涯学習

宮崎 長一郎(日本薬剤師会 常務理事)

総合討論

<シンポジウム 5>

9月3日(日) 9:00~11:00 (B会場:大講義室)

「FD活動からアウトカムをはかる」

オーガナイザー 脇屋 義文(愛知学院大学薬学部 教授)
古野 忠秀(愛知学院大学薬学部 教授)
茂木 眞希雄(愛知学院大学薬学部 准教授)

- S5-1 大阪薬科大学におけるFD活動の新しい取り組み—新米FD委員長としての試み—
尾崎 恵一(大阪薬科大学 教授)
- S5-2 薬学部に求められるFD活動—今までの経験から見えてきたもの—
小佐野 博史(帝京大学薬学部 教授)
栗原 順一(帝京大学薬学部 教授・学部長)
- S5-3 カリキュラム構築と教員間授業参観をとおした教育の質向上につなげるFD活動
秋葉 聡(京都薬科大学 教授・教務部長)
- S5-4 愛知学院大学ワークショップの振り返りからみえてきたこと
井上 誠(愛知学院大学薬学部 教授・学部長)
- S5-5 薬学教育の枠組みを「知る」ことからFD活動を考える
—「四国4薬学部連携事業」のFD活動と海外薬学教育調査—
松岡 一郎(松山大学薬学部 教授・学部長)

全体討論

<シンポジウム 6>

9月3日(日) 9:00~11:00 (C会場:講義室1)

「個性が輝くインクルージョンの実現

:合理的配慮と方略・評価の多様化、薬剤師としての資質の水準を考える」

オーガナイザー 菊池 千草(名古屋市立大学大学院薬学研究科 講師)
安原 智久(摂南大学薬学部 准教授)

- S6-1 薬学部の講義での事例紹介
菊池 千草(名古屋市立大学大学院薬学研究科 講師)
安原 智久(摂南大学薬学部 准教授)
- S6-2 薬剤師として、親として —ちょっと違う彼ら。今求められる合理的配慮とは—
須崎 宏子(神戸ロイヤル薬局)
- S6-3 大学カウンセラーの立場から—特性を探す支援—
桐山 雅子(中部大学 名誉教授)
- S6-4 障害者の就職支援における合理的配慮?—学生相談と就職相談に関わってみて—
山下 啓司(名古屋工業大学 教授・キャリアサポートオフィス長)

個性を活かして輝くためには

パネルディスカッション(講師登壇による会場との総合討論)

<シンポジウム 7>

9月3日(日) 9:00~11:00 (D会場:講義室5)

「学習成果を測る! インスティテューショナル・リサーチ(教学IR)の取り組み」

オーガナイザー 大津 史子(名城大学薬学部 教授)

長谷川 洋一(名城際学薬学部 教授)

S7-1 学習成果と教学IR

中井 俊樹(愛媛大学 教育・学生支援機構)

S7-2 医学教育における Institutional Research の構築と実践

—機関レベルと部局レベルのIR機能と関連性—

岡田 聡志(千葉大学 高等教育研究機構)

S7-3 薬学部での教学IRの試み1—福山大学薬学部での取り組み—

小嶋英二郎(福山大学薬学部 教授)

S7-4 薬学部での教学IRの試み2—名城大学薬学部での取り組み—

大津 史子(名城大学薬学部 教授)

討論

<シンポジウム 8>

9月3日(日) 14:00~16:00 (B会場:大講義室)

「時代のニーズに応える薬学基礎と臨床教育の融合」:薬学基礎教育からの提言

オーガナイザー 鈴木 匡(名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授)

シンポジウム趣旨 説明

鈴木 匡(名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授)

S8-1 薬学基礎教育と臨床教育連携への提言—薬学における教養 化学—

大高 章(徳島大学大学院医歯薬学研究部(薬学域) 教授)

S8-2 薬剤師が使える! 有機化学

高橋 秀依(帝京大学薬学部 教授)

S8-3 薬剤師が活用できる物理化学教育を考える

—薬剤師のための製剤化のサイエンス—

金澤 秀子(慶應義塾大学薬学部 教授)

薬学基礎と臨床教育の融合に向けて

パネルディスカッション(講師登壇による会場との総合討論)

4) プレコンGRESセミナー

共催：東海薬学教育コンソーシアム

9月2日(土) 9:30~11:00 (B会場：大講義室)

司会進行 長谷川 洋一 (名城大学薬学部 教授)

「平成31年度から始まる新しい実務実習に向けて

：評価と実施計画書を具体的に考えよう」

平成29年1月に開催された新しい実務実習実施に向けた東海地区の検討

ワークショップでの成果報告と、具体的な実習準備についての情報共有。

趣旨説明

PS-1 「平成31年度から始まる新しい実務実習に向けて」

－東海薬学教育コンソーシアムでの実習評価検討の経緯と課題提示－

鈴木 匡 (名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授)

フリー討議

PS-2 「東海地区での新しい実務実習実施検討ワークショップ」で検討された

プロダクトについての報告－実務実習を効果的に実施するための実施計画書－

黒野 俊介 (名城大学薬学部 准教授)

フリー討議

5) 東海地区特別企画

9月3日(日) 14:00~16:00 (A会場：宮田専治記念ホール)

「薬学6年制卒業生からの薬学教育への提言」

司会進行 脇屋 義文 (愛知学院大学薬学部 教授)

東海地区調整機構委員長)

6) ワークショップ

<ワークショップ 1>

9月2日(土) 14:30~16:30 (D会場：講義室5)

「アクティブラーニング四方山話：どうすればアクティブにするのか」

企画・進行 石川 さと子 (慶應義塾大学薬学部)

菅沼 太陽 (東京女子医科大学)

清水 忠 (兵庫医療大学薬学部)

<ワークショップ 2>

9月3日(日) 13:00~16:00 (D会場：講義室5)

「避難所運営ゲーム (HUG)・薬剤師災害研修プログラム (DT-Ph) 体験

：学部防災教育から薬剤師生涯教育まで」

企画・進行 安原 智久、串畑 太郎 (摂南大学薬学部 薬学教育学研究室)

一般講演（ポスター発表：講義・図書館・実習棟1階 ポスター会場）

A-001～A-012 学生発表

受付 9月2日（土）12:30 -

掲示 9月2日（土）13:00 - 9月3日（日）16:00：撤去 9月3日（日）16:00-16:45

示説 9月2日（土）16:30 - 17:30（括弧内の時間は審査のための指定示説時間）

＜指定時間：8分審査員への示説、2分質疑応答＞

学生発表は、大会審査員による採点を行い、優秀発表賞を9月3日（日）に発表する。

A-001 薬学生における対高齢者コミュニケーション力の多角的分析

(16:40-16:50) —今後の教育プログラム作成への活用と展望—

(神戸薬科大学 臨床心理学研究室) ○北野美貴、木村典子、平井友貴、
中島園美

A-002 薬学生の共感力と高齢者とのコミュニケーション力の関係

(16:50-17:00) —今後の教育プログラム作成への活用と展望 (2) —

(神戸薬科大学 臨床心理学研究室) ○木村典子、北野美貴、平井友貴、中島園美

A-003 薬学生の高齢者との接触頻度による聴く認知スキル、聴く行動スキルへの影響

(17:00-17:10) —今後の教育プログラム作成への活用と展望 (3) —

(神戸薬科大学 臨床心理学研究室) ○平井友貴、北野美貴、木村典子、中島園美

A-004 早期臨床体験において在宅患者訪問に同行した1年次生へのインタビュー調査

(17:10-17:20) —在宅医療への同行がもたらす学生の気づきの質的解析—

(摂南大学薬学部) ○岩田加奈、永田実沙、安原智久、串畑太郎、曾根知道

A-005 薬学生によるブラウンバッグと生活習慣チェックシートを用いた

(16:40-16:50) 服薬・生活習慣指導体験学習の効果

(¹名古屋市立大学薬学部) ○三好真琴¹、菊池千草¹、堀池理沙¹、鈴木匡¹

A-006 薬学実務実習が実習生の専門知識（C1～C18）の定着及び新規構築に与える影響

(16:50-17:00) (慶應義塾大学薬学部 医療薬学・社会連携センター 医療薬学部門)

○菊山史博、鈴木小夜、高木彰紀、地引 綾、横山雄太、青森 達、中村智徳

A-007 実務実習における学生主導カンファレンスの新たな試み

(17:00-17:10) (¹名古屋市立大学 薬学部、²名古屋市立大学 大学院薬学研究科、³名古屋市立大学
大学院医学研究科、⁴名古屋市立大学病院 薬剤部) ○中村大学¹、花田菜摘¹、

赤川 巧¹、坂下真大²、菊池千草²、川出義浩^{2,3}、鈴木 匡²、木村和哲^{2,3,4}

A-008 多職種連携医療実習が薬学生にもたらす効果

(17:10-17:20) —Readiness for Interprofessional Learning Scale (RIPLS) と Interdisciplinary Education
Perception Scale (IEPS) を例に—

(岐阜薬科大) ○松山卓矢、館 知也、伊野陽子、戸田有美、勝野隼人、大坪愛美、
上野杏莉、吉田阿希、杉田郁人、兼松勇汰、野口義紘、寺町ひとみ

A-009 1年次におけるチーム基盤型学習(TBL)への姿勢と学習成果に対する多変量解析

(16:40-16:50) —3年分のアンケートを用いた横断的検討—

(摂南大学薬学部薬学教育学研究室) ○永田実沙、安原智久、串畑太郎、曾根知道

A-010 薬学部生のキャリアに対する意識調査

(16:50-17:00) —女子学生が考える、自分のキャリアとは—

(¹金城学院大学薬学部、²金城学院大学キャリア支援センター) ○平松佑彩¹、鶴田紗良¹、佐伯憲一¹、林 一彦¹、吉川昌江¹、青柳 裕¹、高橋誠弥²、原崎周平²、前田 徹¹

A-011 薬学部での PBL(Project Based Learning)の試み

(17:00-17:10) —若者向けおくすり手帳の作成を通して—

(¹名城大学薬学部) ○山崎瑞季¹、植梨花子¹、尾下友梨¹、城間由奈¹、石川勝太¹、小原里奈¹、中山貴都¹、鳥居恵一¹、中野里咲¹、樋口寛人¹、大津史子¹

A-012 我が国の薬学教育研究の動向について —テキストマイニングによる文献解析—

(17:10-17:20) (慶應大薬) ○大島 健、阿部芳廣、石川さと子

P-001～P-131 一般発表

受付 9月2日(土) 12:30 -

掲示 9月2日(土) 13:00 - 9月3日(日) 16:00 : 撤去 9月3日(日) 16:00-16:45

示説 9月2日(土) 16:30 - 17:30 (奇数)、9月3日(日) 11:00 - 12:00 (偶数)

- P-001 薬学教育研究実施にあたって必要とされる研究倫理教育
—薬学教育に関する研究倫理ワークショップより見えてきた課題—
(¹北里大学、²国立がん研究センター、³日本大学、⁴東邦大学、⁵熊本大学、⁶昭和大学)
○有田悦子¹、田代志門²、亀井美和子³、荒川基記³、中田亜希子⁴、竹平理恵子¹、入江徹美⁵、中村明弘⁶
- P-002 薬学実習生が作成した「薬剤師倫理規定第11条」から考える倫理観への理解
(¹株式会社ファルコファーマシーズ) ○式部有佳里
- P-003 患者・生活者のために薬剤師が果たす役割を自覚するための授業計画について
—共感的態度涵養と薬剤師像の深化を目指して—
(¹京都学園大学、²名城大学) ○伊原千晶¹、長谷川洋一²
- P-004 患者・生活者のために薬剤師が果たす役割を自覚するための授業計画について
—授業評価アンケートからみたテーマと自覚の関係から—
(¹名城大学、²京都学園大学) ○長谷川洋一¹、伊原千晶²
- P-005 ナラティブ・メディスンを意識した薬学部教養教育の試み
—神戸薬科大学2年次「総合文化演習」玉巻ゼミでの取り組み—
(神戸薬科大学 教養・社会薬学系研究室) ○玉巻欣子
- P-006 薬学生態度教育へのICTの利用 —ポートフォリオへの学修成果の蓄積と振り返り—
(¹帝京平成大学薬学部) ○荒川一郎¹、鈴木政雄¹、濃沼政美¹、井手口直子¹、百賢二¹、安西借二郎¹
- P-007 福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み(2)
～役立ち感・自己肯定感等に対する一年後の追跡調査を通じて～
(福山大・薬) ○松岡浩史、井上裕文、松田幸久、広瀬雅一、山下純、岡村信幸、木平孝高、大西正俊、渡邊正知、五郎丸剛、道原明宏、前原昭次、長崎信浩、小嶋英二郎、高山健人、田中哲郎、田村豊、吉富博則、伊達有子、藤井早由利、鶴田泰人
- P-008 福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み(3)
～幼児、高齢者との関わりにおける自己評価の推移～
(福山大・薬) ○松田幸久、井上裕文、松岡浩史、広瀬雅一、山下純、岡村信幸、木平孝高、大西正俊、渡邊正知、五郎丸剛、道原明宏、前原昭次、長崎信浩、小嶋英二郎、高山健人、田中哲郎、田村豊、吉富博則、鶴田泰人
- P-009 薬学生の高齢者とのコミュニケーション力に影響を及ぼす要因の探索
—今後の教育プログラム作成への活用と展望(4)—
(神戸薬科大学 臨床心理学研究室) ○中島園美、北野美貴、木村典子、平井友貴
- P-010 模擬服薬指導における薬学生と薬剤師の会話内容の比較
—コミュニケーション教育プログラムをより質の高いものにする為に—
(帝京大薬) ○長谷川仁美、中村英里、三浦菜摘、林和平、新井田純坪、奥秋美香、岩澤晴代、岸本成史

- P-011 認知症患者への対応方法について
—薬学生の考える認知症のイメージより—
(北里大薬) ○小倉未来、竹平理恵子、有田悦子
- P-012 入学前教育および1年次前期の導入教育がもたらす学びの意識の変化
— 知識蓄積型から知識構築型への転換 —
(奥羽大薬) ○和田重雄、伊藤頼位、多根井重晴、衛藤雅昭
- P-013 神戸薬科大学におけるプレースメントテストの評価とその適用について
(神戸薬大) ○小山淳子、児玉典子、和田昭盛、北河修治
- P-014 生物リメディアル教育がもたらす薬学専門科目への効果の検討 (第2報)
(¹福岡大薬) ○刀根菜七子¹、能田 均¹、糸山美紀¹、藤岡稔大¹
- P-015 初年次生の学習意欲を高めるための工夫
— 6年間の学びを見通すためのグループワーク —
(就実大学薬学部) ○塩田澄子、守谷智恵、森山 圭、増田和文、渡辺雅彦、坪井誠二
- P-016 薬学専門科目へつながる初等教育確立へ向けた取り組み
—学生アンケートを基にした解析結果からの新たな試み—
(¹愛知学院大学薬学部) ○波多野紀行¹、茂木真希雄¹、武田良文¹、安池修之¹
- P-017 薬学入門実験における不満足度と学業成績との関連
—学生カルテによる「学びのコミュニティ」構築の一環として—
(名城大薬) ○武田直仁、田口忠緒、飯田耕太郎、植田康次、川村智子、武永尚子
- P-018 テキストマイニングの手法を用いた2年次ポートフォリオ記載内容の分析の検証
(¹昭和大薬) ○佐口健一¹、小林 文¹、田中佐知子¹、中村明弘¹
- P-019 初年次前期における学習記録の継続性は、学生の学習習慣に影響を与えるか
(北陸大薬) ○武本眞清、木藤聡一、倉島由紀子、畑友佳子、荒川 靖、中越元子
- P-020 分野横断的統合型初年次導入科目「薬学入門」へのミニッツペーパー導入が
もたらす学習意欲と学習効果
(神戸薬科大学) ○八巻耕也、池田宏二、上田久美子、土生康司、中山喜明、武田紀彦、
森脇健介、和田昭盛、小山淳子、児玉典子、北河修治
- P-021 学修取り組み姿勢の重要性 —意識・行動と成績との相関—
(¹京都薬大) ○開 章宏¹、吉村典久¹、高橋由佳¹、長澤一樹¹、有本 収¹、上野嘉夫¹、
細井信造¹
- P-022 早期体験学習における振り返りの質的向上に向けた基礎ゼミナールと情報科学の連携
(¹北海道医療大学薬学部、²北海道医療大学心理科学部) ○二瓶裕之¹、西牧可織²、
新岡丈治¹、鈴木一郎¹、足利俊彦¹、近藤朋子¹、姫嶋瑞穂¹、堀内正隆¹
- P-023 実習前後に行ったプレテスト、ポストテストとファイナルテストが学習の評価および知識
の定着に及ぼす効果
(大阪薬科大学) ○田中早織、幸田祐佳、松村人志、島本史夫

- P-024 有機化学 I における時間外学習の習慣付け
—課題とその提出義務付けに対する有効性の検証—
(¹武庫川女子大学薬) ○西村奏咲¹、小関 稔¹、川崎郁勇¹、三木知博¹
- P-025 化学構造式の識別能力を向上させる教材の開発と初年次教育における活用
—就実大学薬学部におけるサイエンスコミュニケーションの実践—
(¹就実大薬) ○山川直樹¹、森山 圭¹、守谷智恵¹、齋藤啓太¹、加藤久登¹、川上賀代子¹、石崎 厚¹、塩田澄子¹、坪井誠二¹
- P-026 分配平衡の理解を目指した学生実習用実験の検討
(¹高崎健康福祉大薬) ○鈴木 巖¹、佐川亜依¹
- P-027 「薬学統計学」講義における LMS(Moodle)を用いた双方向支援効果の検証
(¹近畿大薬) ○松野純男¹、八軒浩子¹
- P-028 理数系基礎科目における協働学習と学習の振り返りの実践
(¹明薬大) ○熊澤美裕紀¹
- P-029 実践能力 (アウトカム) を重視した基礎衛生薬学実習の導入
(¹高崎健康福祉大学・薬) ○平野和也¹、本間成佳¹、金井佑樹¹、三反崎聖¹、福地 守¹、阿部すみ子¹、鈴木 巖¹、吉田 真¹
- P-030 放射性医薬品に関する薬学生の意識調査とデモ実習への取り組み
(¹京都薬大、²エヌ・エム・ピー ビジネスサポート株式会社) ○木村寛之¹、河嶋秀和¹、有光健治¹、屋木祐亮¹、川崎保弘²、平野圭市²、表 正宏²、安井裕之¹
- P-031 臓器モデル実習と疾患関連グループ学習を組み合わせた新たな病態モデル学習の提案
(¹大阪大学大学院薬学研究科 附属実践薬学教育研究センター) ○幡生あすか¹、仁木一順¹、南園真哉¹、上島悦子¹
- P-032 **Building confidence in communication in pre-clerkship pharmacy education**
(¹第一薬科大学、²国際医療福祉大学、³九州大学大学院・医学研究院、⁴九州大学大学院・薬学研究院)
○Denise A. Epp^{1,4}、窪田敏夫¹、吉田素文²、岸本淳司³、小林大介⁴、島添隆雄⁴
- P-033 学際的な **team teaching** による学生の英語発信力育成
—薬学専門教科の教員と英語教員はどのようにコラボレーションできるか—
(立命館大学) ○近藤雪絵、木村修平、山中 司、山下美朋、井之上浩一
- P-034 **OSCE** に基づいた患者との会話に必要な英会話教材の検証 ～初回面談～
(¹昭和大学薬学部、²昭和大学富士吉田教育部、³新潟薬科大学薬学部) ○小林 文¹、佐口健一¹、小林靖奈³、近藤雅人²、天野博美²、遠藤雪枝²、高橋留美²、田中佐知子¹
- P-035 **PBL** として症例提示により薬物治療立案する症例検討の教育効果の検討
—在宅医療用症例提示による症例検討の教育効果—
(¹ひまわり薬局、²前九州大学薬学部非常勤臨床教授、³九州大学大学院薬学研究院、⁴第一薬科大学) ○大澤友二^{1,2}、島添隆雄³、家入一郎³、小武家優子⁴、大光正男⁴、吉武毅人⁴
- P-036 本学薬学部4年次におけるフィジカルアセスメント実習の取り組みについて
(¹北海道医療大学薬学部) ○藤崎博子¹、遠藤 泰¹

- P-037 実務実習事前学習における静脈注射・輸液実習の方略と学生の評価
—医薬品安全管理に対する視点の涵養をめざして—
(¹就実大学薬学部 臨床薬学教育研究センター) ○毎熊隆誉¹、島田憲一¹、柴田隆司¹、
加地弘明¹、高見陽一郎¹、手嶋大輔¹、小野浩重¹
- P-038 実務実習前の薬学生に対するインスリン注射手技指導の教育効果
—高齢者疑似体験を通じた薬学生の気づき—
(¹金城学院大学薬学部) ○後藤 綾¹、水谷友里¹、吉川昌江¹
- P-039 4年次医療系実習におけるTDMの取り組み
—特に「PGx解析とテイラーメイド医療」に関して—
(¹立命館大学薬学部、²パスカル薬局) ○蓮元憲祐¹、平 大樹¹、横井正之^{1,2}、角本幹夫¹、
岡野友信¹
- P-040 電子薬歴ソフトを導入した実務実習直前演習
—薬局実務実習への効果的な直前補講と事前学習での課題の探索—
(¹福山大・薬、²東邦ホールディングス株式会社) ○広瀬雅一¹、五郎丸剛¹、佐藤英治¹、
吉富博則¹、小川圭太²、山下広之²
- P-041 薬学部教員と弁護士によるリスクマネジメント講義の有用性評価
(¹就実大学薬学部、²森脇法律事務所) ○小野浩重¹、加地弘明¹、森脇 正²
- P-042 実務実習事前学習のアウトカムの確認
(¹武蔵野大薬、²エコ薬局、³しもれん2丁目薬局、⁴クオール株式会社) ○田島純一¹、小
川潤子¹、小川ゆかり¹、小清水治太¹、西牟田章戸¹、吉井智子¹、益戸智香子¹、加藤眞
由美^{1,2}、高橋あゆみ^{1,4}、田村祐輔^{1,3}、宮川昌和^{1,2}、高尾良洋¹、三原 潔¹、小野秀樹¹
- P-043 障害学生の修学支援
—学外長期実務実習を見据えた学内実習環境の整備—
(城西大薬) ○木村 哲、小林大介
- P-044 立命館大学薬学部における課題解決のマネジメント能力育成を目指した授業の試み
—問題意識の醸成と課題解決能力育成は薬学教育でどこまで可能か—
(¹(株)パスカルシステム、²立命館大学薬学部、³名古屋市立大学大学院薬学研究科)
○横井正之¹、浅野真司²、鈴木 匡³
- P-045 臨床思考プロセス実践のための大規模教室における薬物治療の統合型演習の試み
(帝京大薬) ○岸本成史、小佐野博史、渡辺茂和、細山田真、厚味厳一、板垣文雄、安藤
崇仁、岩澤晴代、長谷川仁美、横山和明、栗原順一
- P-046 PBL授業の有用性の評価と授業改善の検討①
—協同作業認識尺度を用いた学生の意識調査—
(¹城西国際大学薬学部、²東京薬科大学薬学部) ○富澤 崇¹、石橋健一²、大野尚仁²
- P-047 PBL授業の有用性の評価と授業改善の検討②
—学生アンケートによる授業評価—
(¹東京薬科大学薬学部、²城西国際大学薬学部) ○石橋健一¹、富澤 崇²、大野尚仁¹
- P-048 薬学統合学習の構築 第2報
—臨床薬学-薬理学-有機化学の橋渡し教育を目指して—
(¹神戸薬大、²金城学院大薬) ○土生康司¹、水谷暢明²、宮田興子¹

- P-049 東京薬科大学における統合学習教育
—4年:総合演習、5年:医療の最前線Ⅱ、PBLT、情報収集Ⅰ-Ⅲ、6年:アドバンス演習—
(東京薬科大学薬学部) ○吉田君成、三浦典子、緒方正裕、森川 勉
- P-050 松山大学薬学部と愛媛大学医学部附属病院薬剤部の教育連携によるアドバンスト実務実習カリキュラムの構築
(¹松山大学薬学部、²愛媛大学医学部附属病院薬剤部) ○秋山伸二¹、坂本宜俊¹、高取真吾¹、田中 守²、田中亮裕²、天倉吉章¹、松岡一郎¹
- P-051 総合薬学演習科目における能動的学習導入の効果
(¹星薬科大学 薬学教育研究部門) ○渡邊雅行¹、山内理恵¹、大野修司¹、久保 元¹、浅井和範¹
- P-052 post-clinical clerkship OSCE (pcc OSCE) の実施と評価
(¹星薬科大学、²新潟大学、³帝京平成大学、⁴順天堂大学、⁵明治薬科大学、⁶金沢大学、⁷新潟薬科大学) ○湯本哲郎¹、山村美保¹、白水俊介¹、石塚和美¹、湧井宣行¹、鳥越一宏¹、里 史明¹、酒井寛泰¹、渡邊洋子²、濃沼政美³、檀原高⁴、伊東明彦⁵、松下 良⁶、若林広行⁷、亀井淳三¹
- P-053 昭和大学における新薬局実習「薬局クリニカルクラークシップ」導入の試み
(昭和大薬) ○山本仁美、柴田佳太、松林智子、熊木良太、加藤 肇、小野 稔、小池義彦、加藤裕久、中村明弘
- P-054 当院独自の処方解析プログラムを用いた実習の検討
(¹西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院 薬剤部、²兵庫医療大学 薬学部 ³大阪大谷大学 薬学部) ○阿登大次郎¹、高橋 彩²、辻村仁裕²、南 勝太³、齋藤玲奈¹、古谷真依子¹、衛藤広士¹、辻野 健²、清宮健一²、中島千鶴³、米田耕造³、名徳倫明³、東海秀吉¹
- P-055 薬学実務実習で実施すべき抗がん薬に関する実習内容の検討
—薬学実務実習生アンケート調査からの考察—
(¹高崎健康福祉大薬 臨床薬学教育センター、²同 地域医療薬学研究室、³同 薬剤疫学研究室) ○高橋恵美利^{1,2}、大野祥輝^{1,2}、前田恵里^{1,3}、土井信幸^{1,2}、糸井重勝¹、岡田裕子^{1,3}、大林恭子¹
- P-056 薬学長期実務実習における実習学生のストレスに関する調査
—日本薬科大学と岩手医科大学薬学部との比較—
(¹日本薬科大学、²岩手医科大学薬学部) ○藤原邦彦¹、前田智司¹、松浦 誠²、高橋 寛²
- P-057 実務実習における資料作成が学生服薬指導に与える影響
(¹クオール薬局笠寺店) ○舞中 誠¹、佐野友麻¹、砥上麻衣¹、岩田雄太¹
- P-058 実務実習時における薬液の飛散防止に関する検討
—学生の実務実習時におけるダイワファーマガードを用いた抗がん剤調剤の提案—
(¹日本薬科大学、²埼玉県立小児医療センター、³大和製罐株式会社) ○齋藤 博¹、石井優大¹、市原里沙子¹、稲葉由華¹、岡村祥太¹、寺田大貴¹、中山季昭²、浅野稔浩³、高橋直之³、中村有貴¹、佐藤卓美¹、松田佳和¹
- P-059 薬剤師国家試験の既出問題を用いた病棟実務実習が学生に与える効果の検討
(¹昭和大学薬学部病院薬剤学講座) ○太田品子¹、北原加奈之¹、橋本 研¹、富岡 貢¹、佐々木忠徳¹

- P-060 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討 その1
—平成31年度改訂コアカリ実施に向けて—
(¹北里大学薬、²北里大病院薬、³北里大東病院薬) ○田中 怜^{1,2}、毛利順一^{1,2}、春日井公美^{1,2}、中山萌美^{1,2}、飛田夕紀^{1,3}、川野千尋^{1,3}、小林昌宏^{1,2}、平山武司^{1,2}、黒山政一^{1,3}、厚田幸一郎^{1,2}
- P-061 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討 その2
—病棟実習における代表的8疾患の実施状況—
(¹北里大薬、²北里大病薬、³北里東病薬) ○春日井公美^{1,2}、毛利順一^{1,2}、田中 怜^{1,2}、中山萌美^{1,2}、飛田夕紀^{1,3}、川野千尋^{1,3}、小林昌宏^{1,2}、平山武司^{1,2}、黒山政一^{1,3}、厚田幸一郎^{1,2}
- P-062 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討 その3
—病院実務実習における他職種講義実施の意義—
(¹北里大学 薬学部、²北里大学病院 薬剤部、³北里大学病院 医療の質・安全推進室、⁴北里大学病院 栄養部、⁵北里大学東病院 薬剤部)
○中山萌美^{1,2}、毛利順一^{1,2}、春日井公美^{1,2}、田中 怜^{1,2}、荒井有美³、近藤 関子⁴、飛田夕紀^{1,5}、川野千尋^{1,5}、小林昌宏^{1,2}、平山武司^{1,2}、黒山政一^{1,5}、厚田幸一郎^{1,2}
- P-063 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習の試行に関する報告
(¹高崎健康福祉大学薬 臨床薬学教育センター、²同 薬剤疫学研究室、³同 地域医療薬学研究室) ○岡田裕子^{1,2}、土井信幸^{1,3}、前田恵里^{1,2}、高橋恵美利^{1,3}、糸井重勝¹、大林恭子¹
- P-064 保険薬局における新コアカリ対応の問題点
(¹クオール薬局磯部町店、²クオール薬局内灘店) ○中村郁代¹、宮岸健一¹、長谷川功¹、木村望美¹、宮岡 勉²、木崎彰則²、西島ひかり²
- P-065 チーム基盤型学習を用いた分野横断統合演習の構築の試み
(神戸薬科大学) ○上田久美子、八巻耕也、土生康司、寺岡麗子、宮田興子、北河修治
- P-066 実務実習における病院と薬局による合同発表会の試み
—病院実習と薬局実習の連携を目指して—
(¹藤田保健衛生大学病院薬、²金城学院大学薬、³日進豊明薬剤師会オリーブ薬局、⁴愛知県薬剤師会いとう薬局、) ○久保みさき¹、太田真紀子¹、津川 透¹、林 高弘^{1,2}、森道成³、伊藤裕至⁴、山田成樹¹
- P-067 改訂モデル・コアカリキュラム準拠の実務実習に向けた学生アンケート調査
—実務実習項目の時間配分と代表的8疾患について—
(日本薬科大学 薬学部 臨床薬学教育センター) ○河村剛至、阪本 光、鈴木勝宏、野本裕樹子、佐古兼一、松村久男、藤原邦彦、松田佳和
- P-068 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム下での薬学実務実習を志向した施設評価基準の開発
—いわゆるグループ化におけるグループ作成基準を探索する—
(¹摂南大薬、²近畿地区調整機構) ○安原智久^{1,2}、小森浩二^{1,2}、辻 琢己¹、向井 啓¹、眞島 崇¹、小西麗子¹、三田村しのぶ¹、河野武幸^{1,2}
- P-069 次世代を担う薬剤師の育成 第12報
—症例体験リストを活用した薬学実務実習における薬局・病院連携体制の開発—
(岡山大学病院薬剤部) ○久保和子、猪田宏美、小川瑤子、北村佳久、千堂年昭

- P-070 薬局実務実習で「代表的疾患」を継続的に指導するためののぞみ薬局の取組み
—実習の主観的、客観的評価のトライアルと今後の課題—
(¹株)フォーリーフのぞみ薬局、²安田女子大学薬学部) ○松本陽子¹、日高良昌¹、川崎祐子¹、朝倉佑花¹、宮崎亜珠美¹、山下光莉²、吉岡由貴²、岡 敦子¹
- P-071 薬学教育における多職種連携教育の重要性
—彩の国連携力育成プロジェクト・2017年新たなスタート—
(¹城西大薬、²埼玉県大保、³埼玉医大医、⁴日本工大工) ○細谷 治¹、大嶋 繁¹、上田秀雄¹、田口孝行²、柴崎智美³、勝木祐仁⁴、金本郁男¹、小林大介¹、白幡 晶¹
- P-072 医療福祉系学科連携教育の試み
—むさしの IPE 活動の報告—
(¹武蔵野大学薬学部薬学科、²武蔵野大学人間科学部社会福祉学科、³武蔵野大学看護学部看護学科、⁴武蔵野大学大学院人間社会研究科人間学専攻言語聴覚コース) ○小川潤子¹、小俣智子²、山本摂子³、小野真理子⁴、畠山 恵⁴、益戸智香子¹
- P-073 愛知学院大学薬学部・歯学部5年生による多職種連携教育 (IPE) の実施
(¹愛知学院大学薬学部、²愛知学院大学歯学部、³岐阜大学医学教育開発研究センター)
○恒川由巳¹、渡邊法男¹、友田篤臣²、鈴木一吉^{2,3}、杉本太造²、河村好章¹、井上誠¹
- P-074 在宅医療を意識した医療材料の研修
—医療材料提供施設としての薬局の立場と多職種協働に向かって—
(¹就実大学薬学部、²マスカット薬局) ○柴田隆司¹、小川 光¹、池田優也¹、相良圭亮¹、井上 紫¹、寺本敬志¹、長岡俊幸¹、毎熊隆誉¹、安倉 央²
- P-075 国公立3大学の専門職連携教育 (IPE) 履修者向けアンケートによる追跡調査
—在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の大学間単位互換科目を対象とした調査研究—
(¹在宅医療・福祉コンソーシアム長崎、²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、³長崎県立大学看護栄養学部、⁴長崎国際大学薬学部、⁵長崎大学) ○中嶋幹郎^{1,2}、手嶋無限^{1,2}、竹嶋順平^{1,2}、吉原律子^{1,3}、松本幸子^{1,3}、岩下淳二^{1,4}、榊原隆三^{1,4}、松坂誠應^{1,5}、星野由雅^{1,5}、黒田直敬^{1,2}
- P-076 京都薬科大学近隣地域の医療施設と連携した在宅チーム医療教育体制の基盤構築
(¹京都薬科大、²山科薬剤師会、³京都橘大看) ○今西孝至¹、三浦 誠²、大津山裕美子²、中林 保²、西村公男²、河崎純子²、西村 豊²、松本賢哉³、秋葉 聡¹、楠本正明¹
- P-077 双方向型社会連携教育 (Interactive Social-Cooperative Education: ISCE) の試み
—住民との『ふれあい』が学生の意識変化と学習習慣に与える影響—
(新潟薬科大学薬学部) ○浅田真一、齊藤幹央、安藤昌幸、高津徳行、冨塚江梨子、宮下しずか、小林靖奈、継田雅美、小室晃彦、杉原多公通*
- P-078 移動診療車による中山間地無医地区医療の体験実習
(¹広島国際大薬、²庄原赤十字病院・薬剤部)
○杉原数美¹、板倉朋子²、黒長正明²、本田和徳²
- P-079 チーム基盤型学習を用いた分野横断的統合型演習
(東邦大薬) ○金木弘之、水落茂樹、大井浩明

- P-080 チーム基盤型学習(TBL)形式によるEBM学習方略の実践とその効果
(¹兵庫医大ささやま医療センター薬、²兵庫医療大院薬、³千春会病院、⁴大阪薬大薬、⁵兵庫医療大薬) ○上田昌宏^{1,2}、高垣伸匡³、恩田光子⁴、荒川行生⁴、庄司雅紀⁴、志方敏幸¹、清水 忠⁵
- P-081 TBL・ジグソー法による薬剤・臨床系統合型演習の構築とその評価
(¹姫路獨協大薬) ○木下 淳¹、高橋 稔¹、高良恒史¹
- P-082 初年次教育の一環としてチーム基盤型学習(TBL)の導入による授業改善の試み
(名城大薬) ○飯田耕太郎、野田幸裕
- P-083 基礎科学系科目におけるチーム基盤型学習(Team-based learning; TBL)後のアンケート分析
(東邦大薬) ○水落茂樹、木島里紗、金木弘之、大井浩明
- P-084 薬理系学生実習へのチーム基盤型学習導入における成果と課題
(九州保福大・薬) ○武藤純平、橋口誠子、鳥取部直子、比佐博彰
- P-085 学習心理学に基づき立案した一方向性講義の教育効果
—記銘不調となる学生の発生頻度を認識し知識が修得されやすい環境を構築する—
(東北医科薬科大) ○渡部俊彦、伊藤邦郎、町田浩一、米澤章彦
- P-086 解説講義の提供タイミングが問題解決に必要な知識習得と判断力に与える影響
(大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター) ○角山香織、中村敏明
- P-087 習熟度別講義における成績の伸びに対する性格因子の影響の比較分析
(¹武庫川女大薬、²武庫川女大文) ○三浦 健¹、中林利克¹、野坂和人¹、水野英哉¹、安井菜穂美¹、安東由則²、三木知博¹
- P-088 習熟度別講義における成績に対する「甘え」の影響
(¹武庫川女大薬) ○安井菜穂美¹、中林利克¹、三浦 健¹、三木知博¹
- P-089 神戸薬科大学薬学基礎教育センターにおける適切な自律性支援の検討
—学習意欲研究における学習の動機づけと自己決定感との関連—
(¹神戸薬科大学) ○児玉典子¹、小山淳子¹、和田昭盛¹、北河修治¹
- P-090 “朝活”による実務実習前教育支援 第2報
(大阪大谷大学薬学部 薬学教育支援・開発センター) ○青江麻衣、江崎誠治、前崎直容、田中静吾
- P-091 “朝活”による卒前教育支援 第2報
(大阪大谷大学薬学部薬学教育支援・開発センター)
○江崎誠治、青江麻衣、前崎直容、田中静吾
- P-092 武蔵野大学薬学キャリア教育研究センター5年間の活動検証
—薬学生に対する総合支援組織の在り方について—
(武蔵野大薬) ○弓削田祥子、馬場本絵未、西丸 宏、油田正樹、加瀬義夫

- P-093 キャリア形成プログラム「医療現場で活躍する薬剤師の講演」がもたらす「なりたい自分の将来」に関する思考の変化
(摂南大学薬学部) ○栗尾和佐子、永田実沙、奥野智史、小西元美、串畑太郎、安原智久、曾根知道
- P-094 組織的なファカルティ・デベロップメント (FD) 活動を指向した授業評価の分析
(高崎健康福祉大薬¹薬学教育研究推進センター、²免疫・アレルギー学、³遺伝子機能制御学、⁴薬物毒性学) ○森 哲哉^{1,2}、岡本健吾^{1,3}、三反崎聖^{1,4}
- P-095 Narrative Based Medicine (NBM) の基盤教育を目的とした PBL チュートリアルの評価
— PBL プロダクトを用いたテキストマイニングによる傾向分析 —
(¹昭和大・薬、²昭和大・医、³昭和大・富士吉田教育、⁴昭和大・歯、⁵昭和大・保) ○亀井大輔¹、木内祐二²、大幡久之³、倉田知光³、田中一正³、片岡竜太⁴、鈴木久義⁵、加藤裕久¹、中村明弘¹
- P-096 学力把握・学修指導・教育評価ツールとしての AB 解析の有用性
— 正答率と点双列相関係数の和 (設問評価指標) から始める解析 —
(¹千葉科学大学) ○高橋真樹¹、森 雅博¹、細川正清¹
- P-097 神戸薬科大学の薬学英语入門での学力向上に導くジグソー法の検討
— コーディングによる質的分析から学生の意識を可視化する —
(¹神戸薬科大学、²聖心女子大学) ○細川美香¹、藤波 綾¹、竹内敦子¹、田中将史¹、小山淳子¹、西山由美¹、和田昭盛¹、北河修治¹、益川弘如²、児玉典子¹
- P-098 実験実習における能動的学修推進への取り組み
— 分析化学実習に導入した「ピアレビューによる実技確認 (検定)」の効果について —
(¹京都薬大 学生実習支援センター、²京都薬大 代謝分析学分野) ○高尾郁子¹、木村 徹¹、千原佳子¹、木村寛之²、有光健治²、内藤行喜²、河野享子¹、大谷有佳¹、平山恵津子¹、徳山友紀¹、安井裕之²、北出達也¹
- P-099 ルーブリック評価表を用いた学生実習の学生自己評価と成績との関連性
(東京薬科大学薬学部¹薬学基礎実習教育センター、²病態生理学教室、³薬物代謝安全性学教室) ○今田啓介¹、長谷川弘²、藤田恭子²、三輪裕幸²、市田公美²、小倉健一郎³、西山貴仁³、大沼友和³、平塚 明³、安藤 堅¹、佐藤弘人¹、高橋浩司¹、稲葉二郎¹
- P-100 ルーブリック評価は学生の能力を可視化し、成長を促すのに役立つか？
— 実習及び PBL でのパフォーマンス評価での経験から —
(¹名城大学薬学部) ○大津史子¹、田辺公一¹、武田直仁¹、長谷川洋一¹、灘井雅行¹、永松 正¹
- P-101 城西国際大学薬学部の教育プログラム
— 教育効果の検証：自記式調査票を用いた意識・態度評価の試み —
(¹城西国際大学 薬学部) ○寺島朝子¹、酒井健介¹、小柳順一¹、中村 洋¹、長谷川哲也¹、亀井智代¹、扶川武志¹、石崎 幸¹、光本篤史¹
- P-102 城西国際大学薬学部の教育プログラム
— 地域住民の健康を支える力の修得を目指した教育：2年次 地域連携論演習 —
(¹城西国際大学 薬学部) ○亀井智代¹、酒井健介¹、関根利一¹、寺島朝子¹、小柳順一¹、中村洋¹、扶川武志¹、石崎 幸¹、光本篤史¹

- P-103 長崎国際大学薬学部における学習支援制度ラーニングアシスタント制度について
(¹長崎国際大学) ○田中啓太郎¹、岸原健二¹、藤原俊幸¹、深澤昌史¹
- P-104 実務実習中の学生を対象とした基礎科目学力向上のための教材開発
(¹昭和薬大) ○井上能博¹、池野聡一¹、宇都宮郁¹
- P-105 薬学部高学年次生を対象としたアクティブラーニング型補講 (その2)
(¹昭和薬大) ○池野聡一¹、井上能博¹、宇都宮郁¹
- P-106 薬学演習問題作成専用グループウェア“Qmaker”の開発と運用
—問題作成からブラッシュアップまでの作業の効率化—
(¹大阪大谷大学薬学部) ○初田泰敏¹、櫻井芳美¹
- P-107 特別学習対象者に対する CBT 対策薬理学演習講義
—福岡大学薬学教育支援センターにおける取組みの紹介—
(福岡大薬) ○糸山美紀、刀根菜七子、能田 均、藤岡稔大
- P-108 薬学共用試験 CBT—2016 年度結果について
(薬学共用試験セ) ○石川さと子、伊藤智夫、中村明弘、増野匡彦、伊藤 喬、
宮崎 智、前田定秋、山口政俊、出口芳春、石塚忠男、三田智文、飯島史朗、
松野純男、奥 直人
- P-109 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴う新規 OSCE 課題のトライアル
(¹薬学共用試験セ、²名城大薬、³武庫川女大薬、⁴京都薬大、⁵熊本大薬、⁶徳島文理大薬、
⁷昭和大医、⁸福山大薬、⁹東北大薬、¹⁰長崎大薬、¹¹金沢大薬、¹²慶應大薬、¹³静岡県立大
薬) ○野田幸裕^{1,2}、岡村 昇^{1,3}、橋詰 勉^{1,4}、入江徹美^{1,5}、石田志朗^{1,6}、木内祐二^{1,7}、
木津純子¹、田村 豊^{1,8}、富岡佳久^{1,9}、中嶋幹郎^{1,10}、松下 良^{1,11}、松元一明^{1,12}、吉富
博則^{1,8}、奥 直人^{1,13}
- P-110 国家試験の解析を通じたよりよい学内演習問題の作成にむけた指標の具体化
—問題形式および正答率からみる国家試験の傾向—
(¹高崎健康福祉大薬 薬学教育研究推進センター、²同 薬物毒性学、³同 免疫・アレルギー
学、⁴同 分子設計化学、⁵同 遺伝子機能制御学、⁶同 薬品物理化学) ○三反崎聖^{1,2}、
森 哲哉^{1,3}、山際教之^{1,4}、岡本健吾^{1,5}、阿部すみ子²、鈴木巖^{1,6}
- P-111 安田女子大学薬学部における入試形態と国家試験までの成績との関連性について
—入学時プレースメントテスト、CBT、国家試験との関連性—
(安田女子大学薬学部) ○玉井幸恵、日高麻由美、赤木玲子
- P-112 国家試験対策を目指す低学年次成績の解析
—Personal data Predict System (PPS)の開発
(¹新潟薬科大学) ○島倉宏典¹
- P-113 6年次前期の要指導学生への取り組み内容の変化から見てきたこと
—事前学修の重要性について—
(¹京都薬大) ○吉村典久¹、高橋由佳¹、開 章宏¹、秋葉 聡¹、細井信造¹
- P-114 選択・記述問題による学生評価と留年・卒業延期・薬剤師国家試験可否との関係
—記述問題評価の妥当性と有用性—
(¹就実大学薬学部、²教育学部) ○渡辺雅彦¹、阿藤寛明¹、末丸克矢¹、高木 亮²

- P-115 実践的思考を養うための既出問題の抽出と分析
 —第102回薬剤師国家試験（実践問題）の正答率の差より読み解く—
 (1学校法人医学アカデミー 薬学ゼミナール) ○辻 学志¹、横井宏哉¹、岡本耕司¹、松田真佐一¹、山下真功¹、後藤健太¹、白川和宏¹、赤岩容子¹、佐々龍範¹、鯨坂孝志¹、杉本実希子¹、香月美里¹、政野敬史¹、松村佳奈¹、稲田このみ¹、村上 理¹、高田直樹¹、木暮喜久子¹
- P-116 サポートベクターマシンに基づく非線形判別を用いた試験合否判別予測モデルの構築
 (第一薬大) ○清水典史、井上 寛、高露恵理子、松延千春、椿 友梨、白谷智宣
- P-117 海外の薬学教育(1)
 —「飽くなき変革に取り組む、アメリカ、カナダの薬学教育」—
 (1徳島大学薬学部、²徳島文理大学薬学部、³徳島文理大学香川薬学部、⁴松山大学薬学部、⁵高松市立市民病院) ○土屋浩一郎¹、川添和義¹、末永みどり²、京谷庄二郎²、丸山徳見³、中妻 章³、松尾 平³、加藤善久³、秋山伸二⁴、高取真吾⁴、山口 巧⁴、清水圭子⁵、桐野 豊²
- P-118 海外の薬学教育(2)
 — 臨床現場を重視して改革に取り組む、フィンランド・デンマークの薬学教育—
 (1徳島文理大学香川薬学部、²松山大学薬学部、³徳島大学薬学部、⁴徳島文理大学薬学部)
 ○飯原なおみ¹、松岡一郎²、阿部真治³、宗野真和⁴、福山愛保⁴、際田弘志³、桐野 豊⁴
- P-119 海外の薬学教育(3)
 —「伝統を携え改革に取り組む、イギリス・フランス・ドイツの薬学教育」—
 (1徳島文理大学薬学部、²松山大学薬学部、³徳島大学薬学部、⁴徳島文理大学香川薬学部、)
 ○宗野真和¹、松岡一郎²、牧 純²、阿部真治³、佐藤陽一³、飯原なおみ⁴、宮澤 宏⁴、通元夫¹、桐野 豊¹)
- P-120 海外の薬学教育(4)
 —「医薬品の適正使用」を支えるオーストラリアの薬学教育—
 (1松山大学薬学部、²徳島文理大学薬学部、³徳島文理大学香川薬学部、⁴徳島大学薬学部)
 ○松岡一郎¹、今川 洋²、二宮昌樹³、佐藤智恵美⁴、桐野 豊²
- P-121 薬学教育におけるジェネリックスキル育成の課題
 —東京薬科大学でのPROG測定および育成について—
 (1東京薬科大学薬学部) ○櫻井浩子¹、益山光一¹
- P-122 新人薬剤師に求める基本的な社会的スキルに関する研究
 —現場のニーズとその解析—
 (1神戸薬科大学薬学臨床教育センター、²エビラファーマシー、³偕生病院、⁴きららみらい薬局、⁵ウィズ・グロー) ○中尾幸代^{1,2}、村田明子^{1,3}、松田裕子¹、南恵理子^{1,4}、山中智香^{1,5}、沼田千賀子¹
- P-123 新人薬剤師に求める基本的な社会的スキルに関する研究
 —現場の現状と本音—
 (1神戸薬科大学薬学臨床教育センター、²偕生病院、³エビラファーマシー、⁴きららみらい薬局、⁵ウィズ・グロー) ○村田明子^{1,2}、中尾幸代^{1,3}、松田裕子¹、南恵理子^{1,4}、山中智香^{1,5}、沼田千賀子¹

- P-124 保険薬局における専門薬剤師教育
—家庭医療専門薬剤師レジデンシーの構築—
(¹マスカット薬局、²社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター、³社会医療法人清風会 日本原病院、⁴福岡大学薬学部、⁵就実大学薬学部) ○小川壮寛¹、松下 明²、守安洋子¹、豊田英二³、大門友博²、中山 元²、川上茂利¹、藤本浩之¹、杉浦 聡¹、江川孝⁴、高見陽一郎⁵、高橋正志¹
- P-125 保険薬剤師に対するセルフメディケーション演習プログラムの実施とその評価
—感冒および便秘症状を訴える来局者への対応—
(¹昭和大学薬学部、²品川薬剤師会、³田辺薬局株式会社、⁴クオール株式会社、⁵薬樹株式会社、⁶一般社団法人ソーシャルユニバーシティ) ○平岡千英¹、赤川圭子¹、藤田吉明¹、小田中友紀¹、加藤 肇²、佐野敦彦³、長沼未加⁴、松下良一⁵、竹内大悟⁶、柴田佳太¹、向後麻里¹、倉田なおみ¹、中村明弘¹
- P-126 薬局薬剤師の生涯学習の現状と今後に向けて
(フロンティア薬局) ○桐村拓也、小溝優子
- P-127 生理学に着目した薬剤師卒後教育への取り組み
(大分三愛メディカルセンター薬剤部) ○山田雅也
- P-128 臨床薬剤師を対象とした化学構造式に関する教育講演後のアンケート調査と解析
(¹兵庫医療大薬、²兵庫医大ささやま医療センター薬) ○清水 忠¹、上田昌宏^{1,2}
- P-129 大学から発信する薬剤師向け e ラーニング教材の作成と生涯教育研修会の実施
—教育アウトカムの測定—
(九州保健福祉大学薬学部) ○徳永 仁、緒方賢次、瀬戸口奈央、高村徳人
- P-130 参加型生涯研修プログラムの有用性評価
—昭和大学薬剤師生涯研修認定制度 (H28 年度) の検証—
(¹昭和大学薬、²品川薬剤師会) ○田中佐知子¹、芦野隆¹、亀井大輔¹、唐沢浩二¹、佐口健一¹、高松 智¹、加藤 肇²、加藤裕久¹、中村明弘¹
- P-131 保険薬局における漢方薬の使用と服薬指導の実態調査
—漢方薬の生涯教育の提案のために—
(¹金沢大学医薬保健研究域薬学系 1、²立命館大学薬学部 2) ○荒井國三¹、橋本加奈¹、柴田実香¹、玉田美花¹、木村嘉明¹、佐々木陽平¹、蓮元憲祐²

座長・演者の皆様へ

1. オーガナイザー・座長の皆様へ

- 1) 当日は、直接、会場受付にお越しください。
- 2) 担当セッションの開始 10 分前までに、会場内上手前方の「次座長席」にご着席ください。
- 3) 担当セッションの進行は、座長に一任いたしますが、終了時間は厳守をお願いします。

2. 演者の皆様へ

(1) 特別講演、シンポジウム、ワークショップにてご講演の皆様へ

- 1) 当日は、直接、会場受付にお越しください。
- 2) 事前にお知らせしたオーガナイザー指定の時間でのご講演をお願いします。
- 3) 発表方法について
発表は液晶プロジェクターとノートパソコン (PC) を用いる口頭形式になります。
PC は Windows8 のノート PC を各会場に 1 台準備しますが、
できるだけ 演者をご持参ください。
以下の注意事項に従い、円滑な進行にご協力頂きますようお願いいたします。

『ご用意いただくもの』

ノートパソコン 1 台 (併写はできません) と付属の専用 AC アダプター
バックアップデータ (USB メモリや CD-R に保存されたもの。DVD、MO は不可)

◆OS は Windows または Mac のいずれかとします。PC の機種や OS のバージョン (XP、Vista およびそれ以降) は特に指定しませんが、あらかじめ次の環境に合ったもの、調整したものに限りします。

◆ミニ D-Sub15 ピンコネクタによる映像出力が可能なこと。

会場のプロジェクターの接続用コネクタの形状はミニ D-Sub15 ピンです。外部出力端子が外付となっている場合、外付装置もご持参ください。



← ミニ D-Sub15 ピンコネクタ

◆Microsoft PowerPoint 等のプレゼンテーションソフトがインストールされていること。

◆スクリーンセーバーおよび省電力設定が解除されていること。

◆画面の解像度が 1024×768 ピクセルに設定されていること。他の解像度では、プロジェクターで表示されない等、不具合の原因になります。

◆十分なメモリが実装されていること。多量のカラー映像や動画等をお使いになる場合、十分なメモリの実装と割り当てを行ってください。PC がフリーズすることがあります。

『当日の発表までの流れ』

発表 30 分前まで

◆各自の PC を持参のうえ、会場受付で演者の確認登録をしてください。

発表一演題前

◆次演者席にご着席ください。

◆液晶プロジェクターとの接続コード (未使用のもの) を PC に接続させた後、PC を起動させ、いつでも発表ができるようにスライドショーの状態にしてお待ちください。

※PC をプロジェクターと接続後、電源 OFF やスタンバイモード、休止状態にしないでください。

演者交代～発表

◆演者交代の間に係員がプロジェクターの表示を演者の PC へ切り替えます。

◆発表終了 1 分前 (1 鈴)、終了時 (2 鈴)、および質疑応答終了時 (3 鈴) に、それぞれベルを鳴らし

ます。発表時間の厳守にご協力ください。

(2) 一般演題（学生発表 含む）にてご発表の皆様へ

一般演題（学生発表も含む）については、すべてポスター発表となります。次の注意をご確認ください。

『ポスター作成の注意』

◆ポスターボードのサイズは幅 120cm × 高さ 180cm です。

B0 版（103cm × 145cm）までのポスターを貼付可能です。

◆ポスターボードの左上部には演題番号（大会事務局が準備、20cm × 10cm）の指示があります。ポスター会場で押しピンを受け取り、所定の場所に掲示下さい。

『発表時間等』

◆発表者はポスター会場受付にて、発表者用リボンを受け取ってください。示説時間終了後は受付までご返却下さい。

◆掲示時間は、9月2日（土）13:00～9月3日（日）16:00です。指定された場所へポスターを貼付して下さい。

◆示説時間は、9月2日（土）16:30～17:30（奇数）
9月3日（日）11:00～12:00（偶数）

ですので、各時間帯の示説者（○発表者）は配付されたリボンを装着してポスター前に待機し、質疑応答を行ってください。

- ◆ 『学生発表』にエントリーしている演者は、9月2日（土）16:30～17:30で指定された時間（要旨集に記載）に大会審査員の前で示説発表していただきます。審査員示説時間は8分、引き続き質疑応答2分で審査を行います。審査の結果は9月3日（日）に、ポスター会場で発表いたします。

◆ポスターの撤去は、9月3日（日）16:00～16:45とします。指定の撤去時間以降に残されたポスターは、大会事務局にて処分いたします。必ず時間内に撤去願います。